

同志社大学

2009年度 個人研究費研究経過・成果報告書

2010年 3月 20日提出

所属	職名	氏名
文学部	教授	山口 賀史
研究題目	シェイクスピア劇の研究	
研究成果 の概要	<p><i>All Is True</i>は unfathomable ambiguity をその大きな特色とし、Yates が主張するような the English Reformation のプロパガンダ的作品であるとか “Tudor Protestant imperialism” の勝利を浮き彫りにする作品であると単純に見なすことはできない。テキストそれ自体を丹念に分析する過程においてこの作品は、予想以上に複雑な問題をはらんでいることが徐々に明らかになってきた。また Henry VIII の内的成長の問題に関しても同様に丹念に分析しなければ解決できないほど難解である。そのあたりのところを明確にする知的冒険を試みることができた。</p>	